

学術フロンティア国際シンポジウム報告

- Grudpan 先生, Polasek 先生来日 -

愛知工業大学 酒井忠雄, 手嶋 紀雄

1. はじめに

タイから Kate Grudpan 先生 (Chiang Mai University), チェコから Miroslav Polasek 先生 (Charles University) が 10 月 14 日から 16 日まで愛知工大で開かれた「学術フロンティア推進事業・21 世紀を支えるための材料の開発」の中間報告・国際シンポジウムのために来日された。お二人 (以下 Kate, Miro) にはシンポジウムにおけるご講演の他, 我々の研究室学生によるつたない英語発表のセミナーにまでお付き合いいただいた。ここにお礼を込めて筆を起す。

2. 学術フロンティア推進事業

このプロジェクト (プロジェクトリーダー: 稲垣道夫教授 (愛知工大)) は, 平成 14 年度の文部科学省・私立大学学術高度化推進事業に採択されたもので, 以下 3 つのグループで構成されている (各グループの括弧内はグループリーダー)。

「環境・材料グループ」(著者 (酒井))

「エネルギー・材料グループ」(中島剛教授 (愛知工大))

「情報・材料グループ」(落合鎮康教授 (愛知工大))

グループリーダーは愛知工大の教授で組織されるが, 国内は愛知工大のほか名大, 北大, 福井大, 大分大, 海外はフランス, カナダ, チェコ, ポーランド, インド, タイ, スロベニア, 中国, 韓国の研究者が参加している。今回のシンポジウムは 5 ヶ年事業の 3 年目に当たる中間報告会で, 内外の研究者 60 人が集った。

3. 会議の様子

会議の冒頭に, プロジェクトリーダーの稲垣先生による事業全般の概要報告があったあと, ナノカーボン研究の第一人者である遠藤守信教授 (信州大) が「Materials Science in the 21st Century」と題する plenary lecture を行った。これに続き, 各グループによるセッションが 3 日間に渡り開かれたが, 著者らが一員となる環境・材料グループのセッションは Miro による以下の講演で始まった。

“Sequential Injection Technique in Environmental Analysis and Research: Current State and Prospects” by Prof. M. Polasek
そして Kate による講演が続いた。

“Novel Approaches Using Stopped-Flow Injection Analysis for Environment, Energy and Information” by Prof. K. Grudpan

これらの講演を含め本セッションでは 11 の発表が行われ, 夕方まで活発な討論が繰り広げられた。



写真 1 後列左より: 平野助教授 (環境・材料 G メンバー, 愛知工大), 樋口慶郎氏 (環境・材料 G メンバー, エフ・アイ・エー機器), 著者 (手嶋), 著者 (酒井), Kate, Miro, ほか当研究室学生。



写真 2 京都小旅行にて

会議最終日に, 環境・材料グループは “New Photocatalysts and Zero Emission Analysis” と題するサブセッションを開いた。このサブセッションの終了後, Kate と Miro に残ってもらい, 我々の研究室の学生によるセミナーにお付き合い頂いた。学生による発表は, 聞いている方が恥ずかしくなってしまうものであったが, お二人からは学生に対し心温まる励ましとアドバイスを頂戴した。その後, ちょうど大学祭が開かれていたので, お二人には模擬店の味にもチャレンジしてもらった。

ご帰国前日には京都小旅行にお誘いした (写真 2)。日本を満喫して頂けたと思う。最後に遠方からお越し頂いたお二人に感謝申し上げ, 13thICFIA での再会を期して筆を擱く。